

国際交流員
ヨークさんの

MORIYA
滞在記



レジ袋とファイト!

昨年の12月上旬の朝、いつもどおりにドイツのニュースを見て、気になるニュースが一つありました。すぐに「そのことについてぜひ記事を書きたい」と思いました。

EU委員会はレジ袋使用を削減するため、EU加盟国がレジ袋に税金を課す(有料化する)ことができると定めています。

今回、環境破壊を防止するため、「レジ袋の枚数の制限および禁止する権利を保障する法律」がEU委員会によって提案されました(EU議会で可決され本場に法律になるかどうかは分かりませんが)。このニュースからさまざまな事実を知ることができました。

グリーンピースの調査によると、レジ袋は完全に分解されるまで400年以上かかる一方で、人に使われるのは、平均してわずか25分であるということでした。

また、他の調査によると、ドイツ北西にある北海に生息する鳥の94%の胃から、プラスチックが検出されました。

EU各国では平均して1年間1人当たり198枚のレジ袋が使われていますが、EU各国間の差は明らかです。ポルトガル、ポーランド、ハンガリー、リトアニアは1人当たり500枚以上使用しています。1年間4枚しか使わないフィンランドとデンマークを良き手本とすべきではないでしょうか。ドイツも健闘し、71枚でEU内では6位になっています。しかしながら、更に削減できることが望ましいと思います。

また、レジ袋の使用は世界中で問題となっており、日本もその例外ではありません。私が2003〜2004年に留学した日本と今の日本を比べると、レ

ジ袋の使用を減らす努力の成果を感じています。しかしながら、依然として、コンビニではレジ袋を使いすぎる印象が否めません。

かくいう私も完璧にできているわけではなく、リュックを忘れた時や、便利さに負けて、時々レジ袋をもらいますが、できるだけマイバッグを持ち、レジ袋を断るようにしています。

一昨年、本当に美しい与那国島に行った際、現地の子どもと1時間海岸清掃を行いました。ビーチからの光景は楽園のようだったのに、やはり海岸には漂着してきたプラスチックのゴミが多く、残念な気分になりました。皆さんがビニール袋をもらう度に「この袋が本当に必要か」と考え、断ってもらえれば、嬉しいです。

もちろん、それだけで地球を救えるわけではありませんが、環境問題に対して、一人一人が少しずつ行動に移せたらいいと思いませんか?

まずは一緒に、世界中のレジ袋とファイト(闘い)しましょう!

ヘルシー保健師だより

Vol. 66

子どもの事故予防

1年間に0歳児では4人に1人、1〜4歳児では3人に1人が事故に遭い、痛い思いをしています。

現在、子どもの事故は「避けられないもの」ではなく、「避けること(予防)」ができるもの」という見方に変わってきています。多くの事故対策が確立されており、対策を行えば、約90%の事故は予防できるといわれています。予防対策は、転落防止柵の設置、ヘルメットの着用、チャイルドシートの使用といった「人の努力」を必要とします。

活発に動く子どもがけがをすることは、よくあることです。小さな擦り傷などを作りますが子どもは育っていくものですが、大きなけがや命に関わるような事故に遭わないように、予防対策を行っていきましょう。

万が一事故が生じた場合は

●休日・夜間の

子どもの救急医療

夜間 午後6時〜翌朝8時

時/休日(日曜日、祝日、年末年始) 午前8時〜午後6時※要連絡

・JAとりで総合医療センター(毎週水曜日以外)

0297・74・5551

・総合守谷第一病院(毎週水曜日)

045・5111

●茨城子ども救急電話相談

お子さんが急な病気で心配なときに相談できます。

平日 午後6時30分〜11時30分/休日(日曜日、祝日、年末年始) 午前9時〜午後5時

☎#8000(プッシュ回線・携帯電話から)

029・254・9900

(全ての電話から)

●(財)日本中毒情報センター

タバコ、化学物質、医薬品等の誤飲等の中毒事故が発生した場合には、応急手当てや受診の必要性について相談できます。

・中毒110番(午前9時〜午後9時)

029・852・9999